

Product(APP)

HVELOCITY

Hivelocity inc.
B1F Kasumicho-corpo 3-21-20
Nishiazabu Minato-ku Tokyo JAPAN 106-0031
<http://social.hivelocity.co.jp>
<http://www.facebook.com/Hivelocity.inc>

2019.4.26

【共通課題】

1. 自分たちでプランニングをできるようにしてほしい。
2. 自分たちの開発物がどのように使われているか分からずに開発している
→ プロジェクトの目的、機能、タスクを知らずに開発すると、実施と作業にギャップが生じる。
3. APSが自発的に問題を発見して、解決できない場合がしばしばある
4. MTGやレポートについて、常に問題なく、疑問も意見もない
→ 受動的ではなく積極的になってほしい。問題を指摘し、機能やワークフローを改善してほしい。

1. 自分たちでプランニングをできるようにしてほしい。

【問題点】

- ・ Planningと同時に依頼をかけてしまっている。プロダクトバックログの共有タイミングが遅い。
- ・ 受け身な姿勢だったり、詳細な仕様が落ちてこないとなかなか作業着手までいけない（国内でもメンバーによって同じことが起きる）

【アクションプラン】

- ・ 日本側は、プランニング前に必要な情報は前日までにAPSに共有する。
 - ・ 新規で依頼したいことのコンテキスト
 - ・ 優先度（優先したいプロジェクトやfeatures）
- ・ APSは、feature単位にSprint Backlog等のカードを作成し、プランニング時に継続タスクを含めて自分たちのプランニングを説明できるようにしておく。

2. 自分たちの開発物がどのように使われているか分からずに開発している

【アクションプラン】

- ・ 国内の依頼者（西野、三木、岡澤、原田、木村）は、作業をお願いする際にコンテキストを伝える。
自分だけで説明が難しい場合は、他のステークホルダーにSprint Meetingへ参加してもらってください。
- カフェやファンクラブ等の既存案件の説明を毎回すると時間がかかる。
- 理解しているナレッジをドキュメントにAPS側で起こしてもらい、新規参入者が理解できるようにしておきたい。
不足している箇所は、日本側でFeedbackを返すようにする。次回の月次定例までにAPS側で用意するのはどうか？
- ・ APSは作業開始前に不明点があれば、分からないままにせず必ずSprint Meetingで依頼者に確認してください。
アジャイル開発なので、開始時に要件/仕様がはっきり決まっていることはほぼないと思ってください。

3. APSが自発的に問題を発見して、解決できない場合がしばしばある

【問題点】

- ・それぞれのプロダクトのコンテキスト（こういったビジネスモデルなのか）をよく理解しないと、問題を見つけられないと上記のような動きができない。
- ・言われたところだけをやっている意識があると思う。良いプロダクトを作るという意識がないと言われたことだけをやり、同じようなFeedbackを受けるという繰り返しになる。

【アクションプラン】

- ・2の問題と同じく、それぞれのプロダクトで何を重要視しているかAPS側でドキュメントに起こしてもらおう。それを元に理解が足りていない箇所にFeedbackを行う。
- ・日本側で意識調査（アンケート）を用意して、日本側の期待値とAPSメンバーとのGAPを確認したい。

4. MTGやレポートについて、常に問題なく、疑問も意見もない

【問題点】

- ・問題は3と同じ。APSと国内で同じ目的を持てれば、自ずと問題が見えて問題定義や改善策立案ができるはず。（ルールによっても意識が異なるため、マネージャ層よりGAPが大きくなりそう）

【アクションプラン】

- ・3と同じくまずは、意識調査を各メンバーに対して行い、GAPを無くしていく。3のマインドを持って、取り組んでもらいたい。